

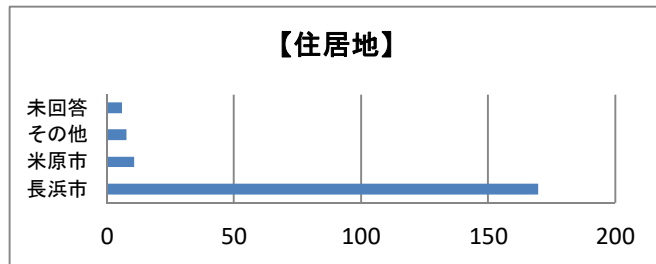
地域医療福祉フォーラム2017 : アンケート結果

開催日時:平成29年10月1日(日)13:30~16:30 会場:浅井文化ホール
 参加者:360人(スタッフ込)一般195人:医療職64人:介護職34人:行政職26人(内当日受付64人)
 長浜ロータリー関係者41人 アンケート回答者:195人 アンケート回収率:54%

1、属性について

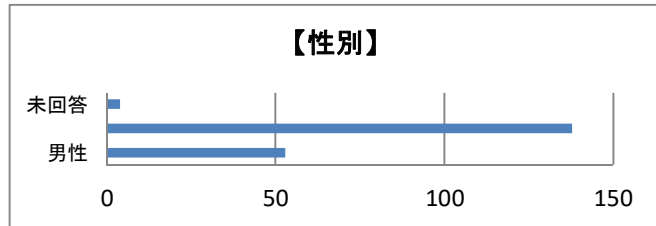
【住居地】

長浜市	170
米原市	11
その他	8
未回答	6



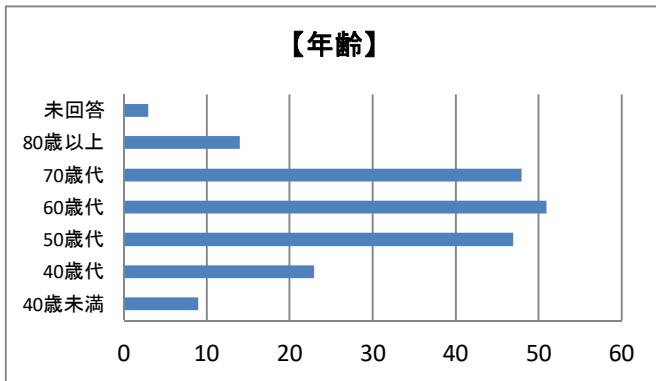
【性別】

男性	53
女性	138
未回答	4



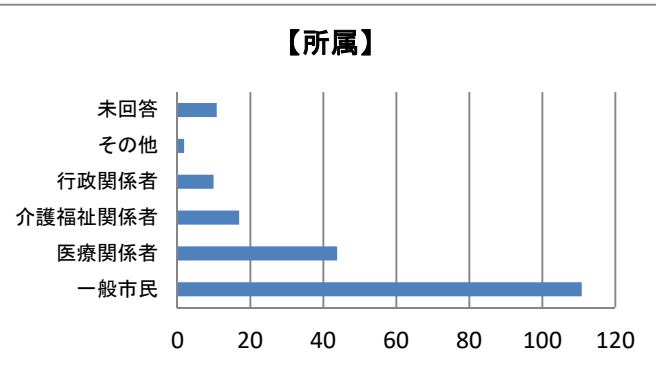
【年齢】

40歳未満	9
40歳代	23
50歳代	47
60歳代	51
70歳代	48
80歳以上	14
未回答	3



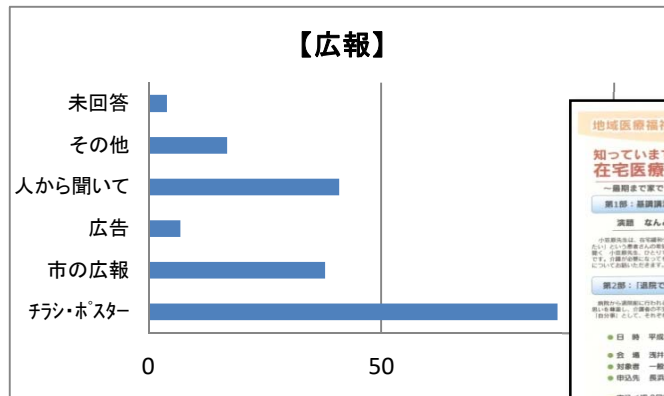
【所属】

一般市民	111
医療関係者	44
介護福祉関係者	17
行政関係者	10
その他	2
未回答	11



2、【広報について】

チラシ・ポスター	88
市の広報	38
広告	7
人から聞いて	41
その他	17
未回答	4



地域医療福祉フォーラム2017 入場無料

知っていますか？
在宅医療や介護の事

「最期まで家で暮らしたい」
第1部：講演講演
演題：なんともたいてい難題

第2部：「講座です！介護が必要です」
「60歳、あなたはどうですか？」

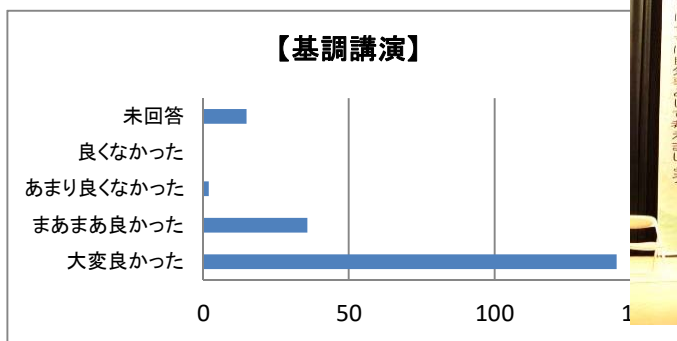
●日時 平成29年10月1日(日) 13:30~16:30 (13時~16時)
 ●会場 浅井文化ホール(大ホール) 長浜市内線2500番地
 ●対象者 一般市民、介護福祉関係者など
 ●申込先 長浜市健康福祉交流センター TEL/FAX 0748-65-2755
 ●申込/受付 9月20日まで

※ 申込費・会場費ともに無料です。
 ※ 聴覚障害者の方の参加も可能です。

共催 長浜市健康福祉交流センター、長浜市社会福祉協議会、長浜市健康福祉交流センター、長浜市健康福祉交流センター、長浜市健康福祉交流センター

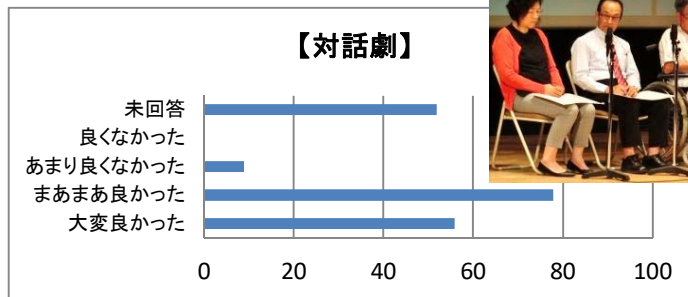
3、 第1部 基調講演「なんとめでたいご臨終」について（講師 小笠原文雄先生）

大変良かった	142
まあまあ良かった	36
あまり良くなかった	2
良くなかった	0
未回答	15



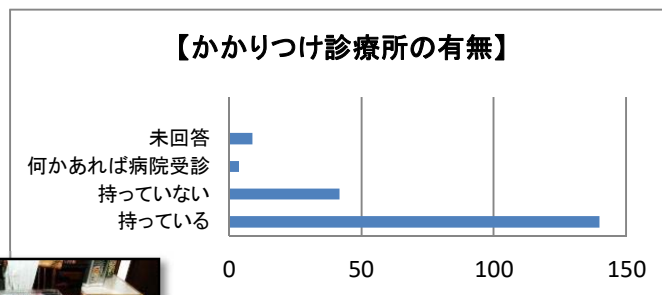
4、 第2部 対話劇について「退院です。介護が必要です。」その時あなたは？

大変良かった	56
まあまあ良かった	78
あまり良くなかった	9
良くなかった	0
未回答	52



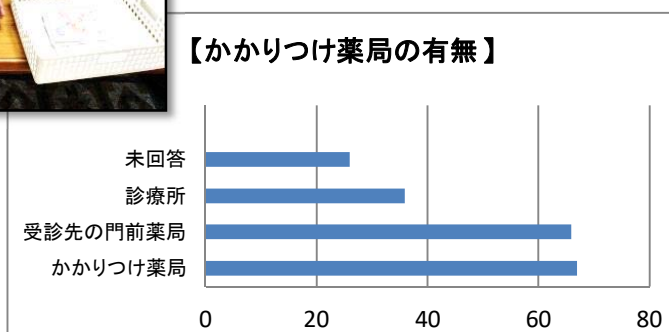
5、 あなたは、お住まいの地域でかかりつけ診療所をお持ちですか

持っている	140
持っていない	42
何かあれば病院受診	4
未回答	9



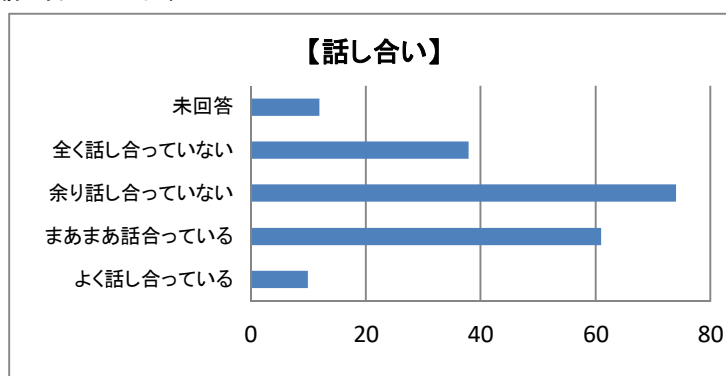
6、 診察後の薬の受取は何処で

かかりつけ薬局	67
受診先の門前薬局	66
診療所	36
未回答	26



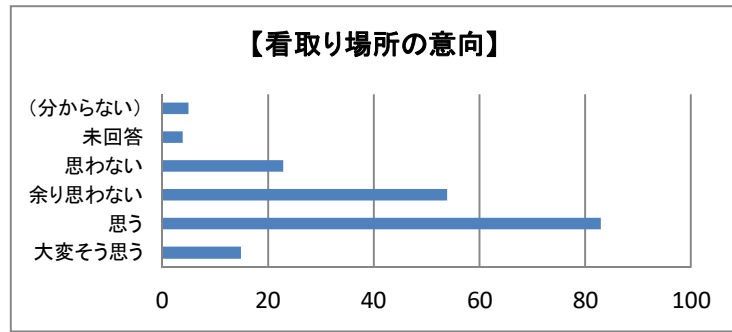
7、 人生に最終段階の意向についてご家族と話し合っていますか

よく話し合っている	10
まあまあ話し合っている	61
余り話し合っていない	74
全く話し合っていない	38
未回答	12



8、 あなたは、病院以外で人生の最期を(看取り)を迎えられると思いますか

大変そう思う	15
思う	83
余り思わない	54
思わない	23
未回答	4
(分からない)	5



○第1部小笠原先生の「なんとめでたいご臨終」についてのご意見・ご感想

一般の方

- ・笑顔で生きる、好きなように生きる
- ・姑を送ったばかりです。認知症で誰かとも認知できなかったので、最後の一か月を病院でお世話になりました。帰宅させるという選択もあったのですが、6年の介護の中で夫が「もう十分世話をした」との判断でした。「息子もわからなくなっている」というのが一番だったのだろうと思う。
- ・在宅だと家族は不安でいっぱいだと思うけど、訪問看護師やヘルパーさんなど今は、助けてもらえるのだったら、安心できるし、本人も幸せだと思います。でも、希望したら、実際そのような事をやってもらえるのでしょうか。
- ・心打たれました。もっと早く知っていればとも思いました。
- ・具体的でわかりやすかったが、この長浜地方でうまくいくのかとも思う。
- ・先生の生の声が聞いてよかったです。
- ・一人住まいの者です。身近に在宅治療のことを具体的に聞いたことがなかったので、大変参考になりました。
- ・在宅介護の重要性に気づかされました。人は生まれて死ぬまで人との繋がりの中で生かされていることを再度認識しました。
- ・病院はストレスが溜まり、自宅療養はストレスが無くなると…。実際に経験していないので、理解しにくい。
- ・先生を信頼して生きた会話ができ満足な気持ちで旅立ちができたと思います。
- 在宅医療のありがたさ、一人でも安心して暮らせる事。
- ・自分の今後のことについて色々考えさせられることが多かった。今までの考えと少し変わってきたように思う。
- ・ご臨終の深い意味がよくわかった
- ・在宅緩和ケア
- ・その時がくる日は誰にでも来ると思った。
- ・理想の最期だと思います。そうなればと思います。
- ・良かったけど、住んでる所(長浜地区)でできるのですか。
- ・笑顔で接することが効果があることが理解できた。
- ・私達世代の本当の意味の老後の迎え方の心構えの一つとして、とても参考になりました。
- ・自分の親の介護を在宅で経験した時のことを思い出しました。現在、諸事情により施設に入所したが、看取りについて自分の中に今まであった思いが明確になった。「在宅でできる」という思いに。地域のいろいろなサポートがあることを知る事が大切だと思う。最期の時を穏やかに迎えたいものです。
- ・こんな先生が近くにおられたらいいなと思いました。
- ・自分のためになりました。
- ・在宅でいる事の意義
- ・自分も先生の話通り逝けたらいいなと思った。
- ・安楽に最期を迎えられますように。
- ・絶望的な方でも臨終の時に家族や本人が笑顔でピースして昇天出来、医療関係者も和やかでいられる事に感心しました。
- ・なんでも入院という考えは変わった。
- ・在宅医療！望むところがやはり病院にたよる。家での介護ではされる側、する側どちらにしても、患者に一日つきっきりでいられないので医療機関を最終頼っています。
- ・事例が多くわかりやすかったです。
- ・当人がどのような希望をするか、だと思う。年をとって判断がつかなくなる前に自分の意思を書き留めておくことが必要。緩和ケアは確かに痛みのない生活が送れるんだろうけど、寿命は延びるものだとは思っていない。何を求めるかだと思う。
- ・自分の家で人生の最期を迎えることの大切さを知れました。自分の子供や孫に自分の死、人の死がどういふことなのかということをもてもらう良いチャンスだと思います。
- ・本を読んでみます。
- ・そこに死が来ていることを感じとった祖母。2日ほどはしゃべることもなかったが、最後の言葉は、残った家族に幸せをもたらせました。私も安楽で残った家族に幸せを与える言葉で締めくりたいと思いました。
- ・長浜にも在宅医療の出来る先生が居てくださるといいなあとと思った。(第2部を聞くまでだったので、すいません)
- ・今日初めて小笠原先生を知りました。早速本を買って勉強したい。人生最後も明るく感謝で送れたら幸福です。

- ・今までの臨終のイメージが変わりました。これから祖母に大叔父、大叔母、父母…と次々に看取りが回ってくると気持ちがマイナスだったが、気分が楽になったかも！
 - ・全てのお話がノンフィクションから成り立っていた為、即自分に置き換え、応用、参考にできたから、大変よかった。先生にお会いでき幸せです。
 - ・小笠原先生のよくわかるお話し、楽しく真剣に聞かせてもらいました。長寿をどのようにすごすか、家族としっかり考え一日一日を過ごしていきたいと思いました。
 - ・家族の死に接して、本人が苦しまずに笑顔で旅立つ事ができるという事例を拝見し、そういう事もできるのかと驚いた。また、残された家族が先生と笑顔で写真の写っているのは、先生との信頼関係が築かれているのだと思った。
 - ・パソコンを使ってわかりやすかった。小笠原先生の話し方が接しやすく良かった。
 - ・どういう最期を迎えるかどうか参考にさせていただきます。
 - ・患者に実際に携わってこられた経験の上の話ですので迫力があって感動しました。
 - ・気持ち次第で変わるんだ…と思った。
 - ・今まで知らなかったことをいっぱい教えて頂きましてありがとうございました。
 - ・在宅医療で楽になれることを知りました。一人で在宅可能になればとても良い。
 - ・テレビでお医者さんに診察してもらえることは安心ですね。
 - ・医療に関わる話と思っていたが、内容的に期待外れ。
 - ・病気になったら病院へ行って直す事があたりまえと思っています。入院が長くなると本人の不満も積り短気になってきます。今回在宅医療のことを真剣に考える良い時間を頂きました。
 - ・発想の転換というか、いろいろなサポートがもらえ「めでたい」最後、ピンピンコロリが可能だと思った。
 - ・母親にも在宅介護を5年行って、間違いないと確信した。
 - ・在宅医療をやりたいですが一人では…
 - ・生きたことの清算ができる。死に方、看取り方、理想です。でも傍にいる家族と医師に恵まれる条件がいりますね。
 - ・親しい人が亡くなるまでの経過に希望を持つことができ、自分が死ぬ際の金銭面で家族にける負担についても不安がかるくなった
 - ・医師、看護師、医療関係者と市民(患者)の信頼関係の上に成り立つ。自身の生き方、死に方考えさせられた。
- 本人が笑顔になる事、支え合いが大事。人の命に向き合う事の意義、大切さ、力強さ、勇気など素晴らしい体験をありがとうございます。
- ・患者さんは女性ばかり。
 - ・看護師の話は素晴らしかった。無量寿、臨終時、臨命終時
 - ・施設に入りたくない親をかかえている私が、どのように在宅介護をすればよいのかが少しわかった。ありがとうございました。
 - ・長浜市においても在宅で最期まで暮らせるように充実した市にしてほしい。
 - ・小笠原先生の話しをまた主人を連れて聴きたい。
 - ・聞きやすく、わかりやすかったです。
 - ・自分も最期まで自分らしく生きられるかなと思えた。
 - ・自分で治療する事が元気になったり、手足が動くようになった。長命になったことにびっくり。
 - ・沢山のケースを紹介してくださりよかったです。在宅(愛する人がいる場所)で、気持ちを楽にすることが、いかに大切かがわかりました。生きるだけでなくいかに生きるかが大事です。でもまわりの介護する人は大変でしょうね。
 - ・ユーモア交じりでわかりやすいお話しでした。
 - ・長浜では在宅医療が余りないので、すぐ病院に頼らずにはいられません。
 - ・今後の参考にさせていただきます。ありがとうございました。
 - ・不安と共にどうすればいいのか？と思っていた、娘は2人いるけれど、本当は一人と一緒に。最期の時は「幸せな一生だった」と思いたい。小笠原先生のお話しを聞いて安心した、早速本を買いに行きじっくり読みます。
 - ・解りやすくスライドも絵が多く、聞きやすく、わかりやすかった。
 - ・お話しを伺って、少し気持ちが軽くなりました。子供がいないので心配です。
 - ・在宅医療は大変良いと思いますが…
 - ・話し方が聞きづらかったし事例は多くあげられたが、家族や患者本人の気持ちをもっとうまく伝えてほしかった。
 - ・大変身に染みるお話。これからの生きる指針にしていくつもりです。
 - ・とても重要なことをお聞きしました。今の医療について考えさせられることばかりだったと思います。
- 笑って死ねれば最高です。
- ・人生最後の時の本音で語られる笑顔が出る人生を送れる心構えを認識させられました。
 - ・スライドでわかりやすいお話だった。

相手に分からない様に手を取り合って、脈を取り、脈拍が多いと終末期の余命など、重要な事は話さない。相手の緊張度などを脈拍で確認している。



医療・福祉・行政関係者

- ・お話し上手で、暗い雰囲気にならずに聞けました。「自宅でも死ぬのかな？」と思えたのではないかと思います。
- ・実際の事例を交えて具体的なお話しが聞けて、大変参考になりました。経過に加え、在宅と入院の経費の比較など、数字を明確にしているところも勉強になりました。
- ・終末期は入院が当然と思っていましたが、家にいた方がいいと聞き、目からうろこが落ちたように思います。
- ・聴衆の反応を見ながら話を進められるのはよかったが、期待する反応がなかった時(また、何を期待されているかわからない時)「ま、まあいいです」とのことだったけど、中々、Vサインで臨終を迎えられるのが理想だと思う。
- ・看取りのイメージが変わった。
- ・自分自身での最期を少しはイメージ出来たと思う
- ・具体的な事例も交えて、医療、命、人生との向き合い方、考え方について考えさせられました。
- ・家族が喜び死を迎える。自分の生き様を家族に見せ全うする。なんて素敵な臨終でしょう。感嘆です。
- ・中身はとてよよかったが、少し聞き取りにくさがあった。よい亡くなり方をされたので、笑顔を見せておられるのはわかりませんが、ピースはどうか…???とってしまった。
- ・「最後まで自分らしく…」急性期病棟の中では難しい事も多いが、自分にできることを見つけて行っていきたい。でも、退院といっても「めでたい」と感じている患者は少ないのではないかと思います。小笠原内科の様な関わりが理想だと思います。色々な事例スライドを見て参考になった。
- ・私も母に笑顔で一人暮らしを安心して生活してほしいです。私ももう少しナースを続けたい。なるべく自分ができる事をしてほしいと思うのですが、もの忘れも出てきて、助けて一と思う毎日ですが、話しをきかせていただいて、私の不安が軽減されることが、母にもいい影響を与えられるのだなあと思い感激しました。
- ・めでたい臨終を迎えるのに何が必要かを考えることができた。
- ・とてよ、在宅医療 家で亡くなることについて考えさせられた。
- ・患者家族に在宅をすすめておられ、よかったです。
- ・最後に笑顔で私自身も死んでいきたいです。若くてもピースができるように。何か涙がでました。
- ・在宅終末期医療の様々な素晴らしい症例をきくことができてよかったです。
- ・「なんとめでたいご臨終」という著書を早々に購入して、読んでみたくなりました。ありがとうございました。
- ・療養病棟での看取りが多くなっている現状です。家族と共に過ごせる時間が多くとれるような働きかけが、入院時より大切だと感じています。大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・これから、自宅での看取りが増えると思います。死をマイナスにとらえることが多いのは、死ぬ前の生き方と死に方のイメージによるものだったと気づきました。医療にたよりすぎず、本人や家族の力を活かした生活を意識したいと思います。
- ・在宅医療ってこんな事が出来るんだという事がわかりました。
- ・笑顔ですみなれた家で過ごせるメリットを感じられた。成功事例100%なのか、しまったと思われたりもう少しという事例はないのか疑問に思った。ペインコントロールも安定するまでに時間がかかったり、いろいろと疑問はあるが…。
- ・先生のお話を聴かせて頂き死生観が変わりました。死んでピースができるなんて、びっくりしましたが、私もそんな生き方をしたいと思いました。
- ・どうせ死ぬのだから、満足した人生を終えられるように本人が笑顔でいられるように、本人や家族、かかわる人がいる中で過ごせる在宅がよいのだとつくづく思いました。本当にわが身なら悩みます。
- ・病気になんて負けない、笑って過ごそうと思うと、体内から生きる力のアドレナリンが発生して病をやっつけていくと信じています。笑顔、高笑いは大切な生きる力だと思っている。
- ・医師研修ももっとしてほしいと思いました。
- ・「自宅に帰りたい」という思いがかなえられた時、笑顔で最期を迎えられるんだと改めて感じました。
- ・私もめでたいご臨終を迎えたいです。
- ・タイトルの意味が思っていたのと少し違いました。あんなにたくさんの人が笑顔で死を迎え、その後も満足できるというのは本当にすばらしいと感じましたし、自分も家族もそうであってほしいと強く思いました。今後の仕事にも活かせるように協力し合えると思います。
- ・今日の先生のような方と出会いのできる人は幸せに思います。私は在宅の訪問ヘルパーをしています、少し利用者さんの状況そのものは全然ちがうけれど、1日でも長くご自宅にて生活を支えられたらいいなと思います。
- ・事例を用いてお話しいただいて、わかりやすかったです。
- ・一度講演を聞きたいと思っていたこともあり、楽しみにしていました。実際こうして亡くなる方がいるということを知って考え方がかわるといって、受け止め方が大きく変わるのではないのでしょうか。健康元氣ばかりで、認知症にしても、亡くなることにしてもネガティブな捉え方ばかり反省します。小笠原先生を呼んでくださってありがとうございました。
- ・住み慣れた家で最期を迎えられる。自分の親や自分が死を迎える時も、ピンピンコロリができればいいです。
- ・苦痛が少なく自宅で看取りができるということは最期の残された方に残される言葉が今後の生きる目標にかわりがもてるのだと思った。
- ・家に帰りたいという人に「家に帰っても安心や」と言ってもらえたら幸せだと思った。
- ・家族とともに楽に一生を終えることは、家族にとっても命の勉強にもなり良いことだと思っています。
- ・もっと聞きたいぐらいでした。本を読みます。家で安心して死ぬことがあたたかく伝わってきました。
- ・在宅での終末期を迎えることのプラス面がよくわかりました。
- ・自分が看護であり、実父、義父、義理母を送り、親せきのおばさんの在宅看取りを支援したこともあり、後悔ないよう最期を迎えられるように心がけ、命のかぎり生ききったと思えること。親せきの息子さんが、亡くなられたあとこれで「悔いはない」と

笑顔でおっしゃったことを思い出しました。自然に日常の中で死を迎えることの素晴らしさを改めて確信しました。

・在宅緩和ケアの現状と様々な事例を知る事ができよかった。

○第2部対話劇についてご意見・ご感想

一般の方

- ・自分は家で療養したいと思う。不特定多数の声ではなく、家族の声の中で生きていたいと思う。
 - ・直面している夫婦なので聞いてよかったです。夫婦で話合いたいと思います。
 - ・それぞれの家族の立場、気持ちがよくわかりました。色々な方面で助けてもらえるとありがたいと思います。
 - ・ひとり暮らしの在宅介護について具体的な介護のやり方について知りたかった。
 - ・他人事でないので大変参考になりました。
 - ・これからの介護は地域の人、みんなが助け合うという事。一人で考えこまないと言うことがわかった。
 - ・来たる事柄のシュミレーションができた。
 - ・地域包括支援センターの説明よかった。
 - ・あらゆる面でお世話して頂けることがわかりましたので、ほっとしています。
 - ・どこの家庭でも起こり得ることで、身近に感じました。
 - ・一人で抱えては介護できないので、その通りだなと思った。自分も経験したので上手にいろんなサポートを使わせてもらうことで、安心して介護できると思う。
 - ・現実を受け入れていない自分にきづきました。
 - ・独居のケースはどうなのか!!小笠原先生のようなことはできるのかな。
- 現在の問題故だと思いますが、小笠原先生の言われた「おはよう」と電話がかけられたら大丈夫との言葉に長浜市もこれに応じられるようになったらいいと希望します。
- ・皆で支える仕組みは大切なこと。相談できる場所とサービスがあることは安心！
 - ・今は家族がいないと在宅療養はできない実情。これからの湖北は独り暮らしが増える。独り暮らしでも在宅療養ができることを強く望みます。今回の劇は一般的でしたが、独り暮らしの在宅療養を考えた劇を上演し考えてほしい。
 - ・介護が必要になった時の事をいろいろ教えてもらってよかったと思います。
 - ・家族で十分話合った結果がもう一つ？実際心開けて話合う先生がどれだけいらっしゃるのか心配。
 - ・認知症、要介護4の祖母を10年家で見てきて、存分にサービスを利用できていると再認識した。それがまた現在の介護に活かしている。いろいろなサービスを受けられるという知識を広めて行くことが大切。
 - ・最終は地域、社会に寄り添い助けて頂くことで「先」を見出せるのかと改めて知り得ることができた。
 - ・16年前に亡くなった義母の介護について、義母の意志をあまり考慮せず家族の都合により進めていたことを大変すまなかったと反省しこれからは家族で早くから話し合っておきたいと思いました。
 - ・介護保険のサービスは利用したことがないのでそういう立場に自分がなった時の手順が良く分かった。
 - ・在宅がこんなに充実しているのかよくわかりました。老いることは不安ですが、安心しました。
 - ・訪問看護、デイサービスなど妻で経験しているので(ほんの少し短い期間であったが)よく理解できた地域包括支援センターの方の話は大いに参考になった。
 - ・介護する方です。介護したい気はあるけれど、自分に全部がかかると精神的に参りそうな気がします。
 - ・至れり尽くせりのサービスしていただけることがわかり安心しました。ありがとうございました。
 - ・自分が動けなくなった時の対応がわかりました。
 - ・常識的な話ばかりで内容に不満。
 - ・夫、私がどちらか悪くなくても、助け合って専門知識をもった人々に相談して生きていけたらと思っています。
 - ・具体的に様々な事が考えられた。湖北の冬、暖房対策等、個別な問題が有ると思う。
 - ・エンディングノートの存在を知って、検討していきたい。
 - ・死の場所は自分で決めること。在宅医療を進めていただく希望が持てました。ありがとうございました。
 - ・家族の身体状態は家族で見る時代に親を見送りましたので、今の時代であれば、もっと気持ちや介護の質に余裕があったらと思うと…と思いつつ劇を拝見しました。嫁も娘も介護のための存在であったと振り返って思います。
 - ・実際に介護が必要になった際のことを、身近に感じることができた。
 - ・事例に基づいた事例説明、よく理解できました。
 - ・抱えてしまうのはイヤで逃げています。仕事を辞めず介護ができる工夫を一緒に考えてくださるんだとわかりよかったです。
 - ・エンディングノートの活用について、大変良かった。
 - ・みんな上手でした。
 - ・介護ケアが相談できる事がよかった。お金の問題も考えさせられる。
 - ・よくあるケースですね。地域の人々や行政の力を借りる勇気を持ちましょう。お互い様なので困った時は声をあげましょう。
 - ・実際の病人の家族なので、身にしみて考えなければと思いました。
 - ・核家族が多いので中々家族の話合う場がない、皆忙しいから…。一人ではいられないという事が頭からは離れないから…。
 - ・これから最後に向けて色々始末しなければならぬ事。そろそろ終活の時(元気うちに)だと感じました。

- ・それぞれの家庭事情やケースによって退院後の生活も考えなくてはならないので本当に難しい問題です。
- ・何もかも大変参考になりました。
- ・地域包括支援センターの活動について良くわかりました。
- ・現実的で今の時代の悩みでしょうか。
- ・劇方式は良かった。少し極端な場面設定だったと思います。そもそも退院が近くなってからの話合いが初めてだったとしたら家族も戸惑うと思う。入院し治療開始されら時に見通し、本人の想いなど家族には伝えてあるはずであり、徐々に準備できると思うので…
- ・地域包括支援センターの説明は少しわかりにくかった。何か棒読みの感じ。
- ・劇にする必要性を感じなかった。
- ・インタビューについてですが、事前にアンケートを取っておいた方が良いのでは？
- ・少し声が小さいので、大きな声で言うてもらえると。



医療・福祉・行政関係者

- ・地域包括支援センターのことを知らない住民がまだまだおられ、介護保険の申請方法など劇を通して学べてよいと思う。自宅では病院ではないので、パジャマではなく服で生活していただきたいです。
- ・質問にもありましたが介護のフォローも大変だと思いますが、そういう時はどうしたらいいですか。
- ・実際に家族や自分に介護が必要になった時、色々な職種の方に助けて頂きながら自宅で生活ができるかと安心です。
- ・包括からの説明やエンディングノートについての話がリハビリの動画が入ってわかりやすかった。
- ・エンディングノートはよく考えて使いたいと思いました。いずれはやってくる最期。今から考える事はとても大事な事と思います。
- ・医療福祉のことがとても分かりやすくお話しされていて良かったと思います。もっと沢山の一般市民の方に聞いて貰えると良いと感じました。エンディングノートも自分のことを見つめ直す良いきっかけとなりそうです。
- これからの生き方も考えられます。
- ・資料があるとわかりやすかった。
- ・他人が入るといいカッコーになってしまいます。毎日の事になると強い口調と命令型になりがちです。エンディングノートは自分を知る為には必要だと思う。
- ・在宅リハビリなど具体的にイメージができる内容で良かった。方言もあり我が事として考えやすい。
- ・在宅サービスの種類を沢山紹介して、安心につながると感じました。こんなに充実しているのはすごいです。
- ・少し聞き取りにくく、対話がわからなかった。
- 上手く活用することが大切だと思います。
- ・家族と早期より関わっていく必要性を感じた。
- ・本人さん、ご家族さんのこれからどうしたいかがはっきりしていてわかりやすかったとおもいました。
- 本人→カラオケ、認知症キャラバンメイトのボランティア活動、孫さんがそれをくみ取っている設定で退院後の生活に希望ももてる内容でよかったと思います。
- ・会場の方の色々な意見が聞けてよかった。
- ・退院調整は自宅へはハードルが高いですが、在宅での介護サービスのもし在宅ならどんなサービスが受けられるか具体的に示されないと中々在宅に踏み切れないのではないかと。また、費用面でも示されていないと選択は難しいと思う。
- ・在宅療養のシステムがわかりました。
- ・楽しく見れた。心に残った。途中の説明も理解、イメージしやすくなった。
- ・カンファレンス 片麻痺の人あの状態ならケアワーカーや訪問看護で生活できるかなと思った。私の祖母は胃瘻で全く動けず、家で10日間息子がみてましたがショートに入れました。少し難しいです。
- ・流れが良くわかりよかったです。また、今のサービスなどが知れてよかった(予防サービス事業など)
- ・同じようなことが自分の家族におきた場合、イメージがつき窓口もわかり良かったと思う。
- 事例の方は家族さんの協力もありよかったが、独居の人、認知症の人、協力が得られない人の場合など、どうしたらいいのかと思うことは他にもあるだろうなと思った。
- ・本人の想いだけでは難しい(在宅介護では)
- ・家族の思いがストレートに表現できていて良かったと思います。サービスの具体化も説明もありましたので。
- ・リアリティがありポイントをしぼった内容でわかりやすかったです。
- ・普通にある家庭の在り方での劇で、納得できました。
- ・訪問リハビリの動画が良かった。
- ・詳しくよくまとめられた説明でよかった。小笠原先生の最後の話がすーっと心に入ってきた。
- ・自分の家で同じことが起こったらどうしようか…と考えるきっかけになりました。
- ・介護を「自分事」として考えるきっかけになりました。
- ・退所カンファレンスにケアマネが入っているとよかったのかと思います。多くの方がどうしたらいいと思っていて、地域包括支援センターがある事はわかったけれど、退院カンファレンスにケアマネが入ってくれる事が可能という結論にならなかったようです。



全体を通じてのご感想やご意見、今後の希望

- ・ありがとうございました。
- ・死は遠いものではなく自分のものと思った。
- ・終末期を考える事ができました。
- ・プチ小笠原先生がいることに感謝です。
- ・エンディングノート、自分史は例示が書く気をなくする。ない方が良くも。自由に記入したい。
- ・主人も一緒に来ると良かった。もっとみんなが在宅医療を考えられる場があると良いと思う。
- ・このようなフォーラムをたくさん行って欲しいです。最期を迎える者の心得や心構え、その家族の心構えを再確認できるようになると思います。
- ・自分の死について考えるのは今もありませんので少し考えてみます。良い機会になりました。
- ・また聞かせてほしい。
- ・家族がいない為心配。
- ・他府県の医療を受けているので地域のかかりつけに変わりたいと思います。
- ・最後の小笠原先生の言葉は心に伝わりました。
- ・地域医療の進んだ長浜市に!!
- ・エンディングノートを頂けたこと、説明して頂けたこと、ありがたかったです。ありがとうございました。
- ・小笠原先生の話はおもしろい。
- ・親の介護は終わりました。次は自分の番です。具体的に真剣に考えなければならないと思います。最終は自己管理で元気な老人になることです。
- ・地域包括支援センターの名称しか知らなかったので、お仕事を知れてよかったです。
- ・今後年々、高齢者が増加する為、此れの知識は必要です。良い勉強になりました。
- ・笑顔で生きるためにが、学べました。ありがとうございました。若い人がもっと学べる様、広報できると良いと思います。
- ・この世の中、この政治を見ると、高齢者は不安と二人三脚かもしれません。福祉関係で働いて下さっている方にお世話になる時は、明るくやさしい被介護者になれるよう…と考えています。
- ・わがまちづくり協議会の主催でも、今日の講義のような内容を聞ける機会を持つとよいなあと考えた。より小さい単位での出前講座でより身近に考えられる機会が必要と感じた。ありがとうございました。
- ・今は元気に過ごしていますが、いつ自分の家族に降りかかってくるかわからないので、相談できる場があると聞き安心しました。
- ・身近な方々に少しでも伝えられればと思う。
- ・末長く健康で…?とありますが、年行くごとに今までの様にもう一息ががんばれません。先が不安でしたが、少し気が楽になりました。ありがとうございました。
- ・介護される立場になった時のことを、元気な時に考えておく必要がある。近親者との話し合い、支援センターでの相談する事が必要と判断できました。
- ・人生の最終にどう終われるかを、改めて考えることが出来ました。
- ・全てのことに前向きになるには、普段から家族が仲良く一枚岩になっていなければならないと痛感した。
- ・色々考える時間となった。先のことではないと思えた。
- ・現在、健康のため主治医はいません。
- ・良い企画で、今後の生き方を考える節目をいただきました。ありがとうございます。継続してやってほしい。
- ・いろいろお話を聞いて、よかった。また、わからない時は相談していこうと思う。
- ・独りで悩まなくても、いろんな機関が手短かに相談できることがわかり良かったです。
- ・今の地域包括の存在だけでは、安心できないと思った。
- ・身近な事なのに近所の方とか周囲の方の話題になりにくいテーマなので勉強させてもらえてよかった。
- ・今回フォーラムに参加させていただき3回目です。世の中進化しているので、その時に合わせてかなりよかったです。
- ・良いフォーラムでした。ただ、安心の世界を勉強しなければ強く思った。
- ・大変勉強になりました。
- ・皆さまお忙しい中、お疲れ様です。
- ・第2部の資料もいただき良かったです。
- ・今回のフォーラム、色々な機関を巻き込んで開催されていたのが良いなと思いました。
- ・あくび体操とピースはすっかりできました。大変よいフォーラムに参加できうれしかったです。ありがとうございました。
- ・この間ターミナルの利用者が、7日間家、7日間施設で(過ごし)最後(施設から)帰る時、本人が、スタッフ他の利用者に笑顔で「ありがとう」と言い帰られ、その2日後に亡くなられました。私自身家人も本人もよかったですなと思いました。

地域包括支援センターさんへ、まだまだ独居で独りで生活が困難な方がたくさんいます。認知症がありできなくて困っている人がいます。もっともっと活動をよろしく願います。

- ・高齢者及び介護者、今後介護者になる人に、命はかぎりないこと、いろいろ治療、介護サービスがあることはもちろん使った時、使わなかった時の行先きの見通しまで説明しておいてほしい。殆ど死生観について聞く機会が少ないと思う
 - ・大変貴重な講演を聞くことができました。ありがとうございました。
 - ・第2部の劇を見て、退院調整のかかわりを早期からもっていく必要があると感じた。分かり易く説明して頂けてよかった。
 - ・在宅で介護するのは、不安ばかりが先に立つのが日常ですが、おおらかにかまえるのも必要だと思いました。
 - ・必ず人間は死を迎えます。人生を精一杯生きたいと思いました。
 - ・高齢者や地域の方が参加できてよかった。若い方の参加がもっとあればよかった。
 - ・今後も定期的にしてほしいです。もっと沢山の市民の方が参加できるとよいと思います。
 - ・死の迎え方の可能性を示していただいたのですが、社会資源は整っているのでしょうか。また、病院がよいと思う方もいるはず。みんながそれぞれ自分で選択できるということが大切だと思います。
 - ・基調講演に毎年とても良い先生の良いお話して、楽しみにしています。
 - ・自分らしく生きて、これからの自分の事として考えたい。参考にさせていただきます。
 - ・具体例や実例を通して、現実的にイメージして考えることができました。ありがとうございました。
 - ・各地域に密着浸透するように出前講演は各字毎に大切と思います。公民館やお寺を利用してされるとよいと思います。
 - ・老人世帯が多くなり、社会資源の使い方がわからない方が非常に多く困っておられる方のためにもっと啓蒙していただきたいです。
 - ・まだまだ自分で死ぬとは思えない気がします。どうしたら、介護できるかがもう少し見えなかったと思います。例(長浜さん)の場合もどのような人が関わって、どのような介護ができているかの説明があるとよかった。
 - ・一般の方には在宅でみてもらえる開業医があることを知りません。また、PCAなどの医療を行ってもらえる開業医がありません。医師会、PCAポンプなど医療機器を考えてほしいです。
 - ・遠隔医療の話があったが、300~400Km離れた所どこでも診療報酬は請求できるのか？
- 講師の話は具体的で大変よかった。
- ・お願いします。トイレを是非洋式にリフォームして欲しいです。
 - ・男性(若い人だったので関係者?) 座席ですと携帯を触られていた。聞く気がないのか？
- すごく気が散った。マナーモードのアナウンスはされていたが、携帯の使用についてもアナウンスしないと、ずっと携帯をさわっておられるのは嫌だった。
- ・手話がついていましたが、聞こえに不自由でも手話はわかりません。要約筆記があればよかった。
 - ・よく冷えて、寒さを感じました。

小笠原先生と
あくび体操!



(文責)長浜米原地域医療支援センター